

マンガのコマに重なる吹き出しの研究

渡辺 瑠璃子

現在、視覚障害者や身体に障害を持つ人のために、小説などの音声読み上げ技術が利用されている。しかし、マンガの音声読み上げのサービスは存在せず、視覚障害者の視聴出来るマンガ作品は健常者と比べ限られている。音声読み上げ技術をマンガに適用することを目的とし、マンガの吹き出しの検出および吹き出しの形状を分類する手法の研究が行われているが、特にコマに重なる吹き出しの自動検出は難しいとされている。そこで本研究では、マンガにおいてコマに重なる吹き出しの登場する傾向や、使用されている吹き出しの形状の傾向を把握する基礎的なデータを作成することを目的とし、次の分析を行った。マンガのジャンルは、少年マンガ、男性マンガ、少女マンガ、女性マンガの4ジャンルであり、各ジャンルから3作品を調査対象とした。コマに重なる吹き出しのみを対象に、作品ごとに巻の冒頭から順に50個ずつの、全12作品、計600個を抽出した。吹き出しの種類は、コマに重なる吹き出し、コマにまたがる吹き出しの大きく2種類に区分し、4つのジャンルでどのような傾向が見られるか分析した。

集計項目の組み合わせを(1)ページ左右×所属コマ位置×コマの大きさ(2) コマの大きさ×コマ中に占める吹き出しの割合(3) フォント×吹き出しの型(4) ページ左右×話者の方向の4パターンに設定し分析した結果、コマに重なる吹き出しは、4ジャンルとも小さいコマに含まれることが多く、コマの大きさが小さいほど吹き出しがコマに占める割合は大きいことなどが分かった。また、セリフのフォントは明朝体、吹き出しの型は曲線型が多く見られた。吹き出しの所属するコマがページのどこに位置するかはジャンル間で様々であり、また、吹き出しに対する話者の方向に関してはページ左右で異なることが多かった。

本研究によって、各ジャンルのマンガにおいてコマに重なる吹き出しがどのような要素と同時に描かれるかを把握することが出来た。しかし、吹き出しの型や話者の方向など、1つの項目の中で選択肢が多い場合、集計結果が分散してしまい、有意差が認められない箇所があった。よって、今後の調査ではサンプル数を増加するか、選択肢を小さくくりとして少なくするなどしてより傾向を把握しやすくすれば、今回の分析以上に精度の高い分析を期待できると考える。

また、集計結果から、小さいコマで、セリフが明朝体で、かつ吹き出しが曲線型の場合が多いとしたが、これらの要素は大きさを問わず全てのコマ、全ての吹き出しを集めた場合でも、その母数自体が多いのではないかという疑問を生じた。つまり、吹き出しがコマに重なる場合に限ったことではなく、マンガにおいては小さいコマが多く、明朝体のセリフが多く、曲線型の吹き出しが多いのではないかという疑問である。この点についても今後の課題としたい。

(指導教員 辻慶太)